

D:競技会主管FF用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト

(関係機関保管)

シーン	項目	チェック欄	備考
1 準備 (～競技会前日)	<b>①試合会場・関係者の確認事項</b>		
	(1) 主管FFは感染対策責任者を定める。		
	(2) 各参加チームの感染対策責任者を確認する。		
	主管FFの感染対策責任者は参加チームの感染対策責任者に以下の事項を事前に伝達する。 (1) 以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる ・体調が良くない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合) ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がある (3) 過去14日以内に2回以上医師検診、入館後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該居住者との濃厚接触がある場合 (2) 当日参加する選手・スタッフ全員がマスクを着用する (3) 全員の健康チェックシートに記入し提出してもらう (4) 競技会に参加する上で主管 F A が示す注意事項を遵守してもらう		
	(4) 参加チームの感染対策責任者にそれぞれの地域の自治体から会場となる地域への移動制限が解除されており、会場への移動が問題なく行えることを確認する。		
	(5) 競技会に参加する全てのチームの選手全員が試合を行うために十分なトレーニングを行ってきていることを確認する。		
	(6) 競技会に参加する全てのチームの選手・スタッフ全員が「新しい生活様式」に従って日々の感染症対策、健康管理を行っていることを確認する。		
	(7) 競技会に参加する全てのチームの選手・スタッフの中に濃厚接触者として2週間の健康状態観察中の人がいないことを確認する。		
	(8) 参加チームの選手の保護者ならびに関係者全員が競技会、試合開催を了解しており、参加チーム、会場、試合数、キックオフ時間を理解していることを確認する。 主管FFの感染対策責任者は、事前に下記事項を試合会場の管理者等に確認する。		
	(9) ① 試合会場が感染対策を十分にしているか否か。 ② 他団体が入りまで同会場を使用するか、直前に使用する場合、当該団体の感染防止対策が適切にされているか否か。 ③ 試合運営に関わる全員が感染対策を認識し、運営準備段階からマスクの着用、手洗いの散行を行う。		
	(10) 前日及び当日に体調の悪い人は躊躇せず申し出て会場に来ない、足を運ばないルールを試合関係者間で事前に徹底する。		
	(11) 試合に関わる全ての人 (FF、ボランティア、試合会場、その他関係者) に健康チェックシートを提出してもらい健康状態チェックを行う。		
	(12) 健康状態チェックで準備段階で体調が悪い人がいた場合は、すぐに帰宅させる。		
	(13) エキゾーム写真を提出してもらい、ユニフォームカラーを事前に決定しチームに通知する。		
	(14) 代表者・監督会議をWEBで実施する。または連絡・共有事項を事前にチーム代表者にメール展開することで、その代わりにする。		
	(15) 試合会場のロカールームが狭い、換気が不十分の場合、別の部屋を準備するか壁外 (ピッチ脇など) にテントの仮設ロッカーを設置する。		
	(16) ベンチで間隔を空けて座れるよう、テント等で追加ベンチを設置する。(暑熱対策から屋根付きベンチとする)		
	(17) 可能な限り、更衣室、ベンチ、審判控室、トイレ等の消毒を行う。		
	(18) トイレの個室に「流す時は蓋を閉める」表示、洗面所に「手洗いは30秒以上」の掲示を行う。		
	<b>②メディア対応</b>		
	(1) メディア取材を事前申請制とし、会場のサイズに応じて記者の数を制限する。		
	(2) 取材メディアに対し、①-②の内容を確認する。		
	(3) 記者室、会見場が狭い場合、代替の場所を検討する。代替の場所がない場合は、取材メディアにその旨を周知する。		
	(4) 選手と接触しないメディア動線を確認する。		
	(5) 取材者と選手が2m以上の距離が保てるミックスゾーンの設置を行う。		
	<b>③観客対応</b>		
	(1) 新型コロナウイルスの感染拡大注意とされる地域においては無観客試合が推奨される。		
	(2) 観客を場内に入れる・入れないの判断は、自治体ごとの集会・イベントに関する方針に従う。 観客を入れる場合は、以下の点についてホームページ等で事前アナウンスを行う。 ① 集合の悪い人は来場を見合わせてもらう ② マスクを着用してもらう ③ 各自 2 m の間隔をあける ④ 声を出しての応援をしない等の事前アナウンスを徹底する。		
	(3) 来場者を場内に入れる場合は、サーモグラフィ、体温計による体温チェックを検討する。体温チェック実施困難な場合は、ゲートに人員を配置し、体調の悪い人は観戦をご遠慮いただく(アナウンスをし続ける)。		
	(4) 観客を入れる場合は、場内において③を徹底する。		
(5) 飲食売店の運営を行う場合は、感染対策を徹底しうす、ドブ蓋を使用しない、アルコール類の販売はしないことを徹底する。			
(6) 会場内各所 (入退場ゲート、トイレ) に設置するアルコール消毒液を準備する。(1リットルで約300プッシュ)			
(7) 上記③-⑥の対応ができない場合は無観客試合として、事前にその旨をホームページ等でアナウンスする。			
<b>④備品の確認</b>			
(1) 感染対策実施のために必要な備品リストを作成し、当該備品の準備状況を前日までに確認する。 感染対策実施のために以下の備品を準備する。 ① 濃密スタッフ用マスク ( 個) ② アルコール消毒液 ( 個) ③ 液体石鹸 ( 個) ④ ペーパータオル ( 個) ⑤ ゴミ袋 ⑥ 各自の飲料水用のボトル ⑦ ドアストッパー			
<b>⑤運営スタッフの健康状態の確認、設置等</b>			
(1) 会場で運営に携わる人全員がマスクを着用していることを確認する。			
(2) 人員配置を必要最小限に絞る。(明確な業務のない人は来ない)			
(3) 試合に関わる全ての人 (FA、ボランティア、試合会場、その他関係者) の試合当日に健康管理表を提出してもらい健康状態チェックを行う。			
(4) ⑤-③で体調が悪い人がいた場合は、どのようなポジションの人でもすぐに帰宅させる。			
(5) 全て諸室のドアを全て開けた状態に保つ。(換気、ドアノブを触らないよう配慮。)			
(6) 諸室の窓を全て開けた状態に保つ。(換気)			
(7) 各諸室にアルコール消毒液を設置する。			
(8) 各諸室でスタッフが正面に座らない座席の配置を行い、お互いが1.5~2mの間隔を空けるようにする。			
(9) 各諸室においてドブ蓋を使用しない。			
(10) 各トイレに液体石鹸とペーパータオルを設置する。			
(11) ロカールームにおける感染防止の注意点を伝える。			
<b>⑥MCMにおける参加チームへの確認事項</b>			
(1) 両チームメンバー、スタッフの健康管理表を提出してもらい健康状態の確認を行う。			
(2) 両チーム、審判との握手を実施しない。			
(3) 試合前のチーム集合写真撮影は行わない。			
(4) 円陣を行わない。			
(5) 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない。			
(6) ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐いたり、手鼻をかまない。			
(7) 同じボトルを他の選手と共有せず、口に含んだ水をピッチ内に吐かない。			
(8) タオル等、リネンを他の選手と共有しない。			
(9) ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。			
<b>⑦レフェリー (→審判員) との事前確認事項</b>			
(1) 審判員の健康管理表を提出してもらい健康状態の確認を行う。			
(2) 審判員は用具チェックを両チームのロカールーム付近、または場外で行う。審判員は用具チェック中マスクを着用する。			
(3) 試合前のセレモニーを控えてもらい、コイントスもキャプテン同士の距離を2 m以上確保する。			
(4) 試合前の集合写真の撮影は実施しない。			
(5) 交代用紙使用の有無を伝える。			
(6) 試合の記録記録のために、選手、指導者、審判員等が共通の文房具類を使用する場合は、消毒する。			
(7) 第4の審判員はマスクを着用し、4thオフィシャルベンチに複数名が入らないよう運営側と調整する。			
<b>後片付け</b>			
(1) 更衣室などを開け、更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。			
(2) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴び等の工夫をする。			
(3) チームがメディアからの取材を受ける場合には、記者と選手の間隔を2 m、また取材者同士の間隔を最低 1 m以上保つことを徹底する。			
(4) 試合会場のルールに違反し、ゴミを密封した状態で処分する。			
(5) チーム出発後、ロカールーム及び審判控室の消毒を行う。			
(6) 担架を使用した場合は、消毒を行う。			
<b>事後対応</b>			
(1) 帰宅後14日以内に運営に関わった人の中から感染者が出た場合は、JFAに報告する。また参加チームの感染対策責任者にその旨を伝える。			
(2) 帰宅後14日以内に参加チームから感染者が出た報告があった場合は、JFAに報告する。			